■庄内用水頭首工
堀川の上流端。庄内川の水を頭首工でせき止め元杁樋門から通水。

■元杁樋門
庄内用水頭首工から水をとりいれている。

■川面に映る稚児宮人道橋
レインボーカラーが川面によく映る。

■御用水跡街園
御用水跡に沿って続く散歩道。

■猿投橋直下の落差工
堀川唯一の落差工。河口から13ｋｍのこの地点まで潮の干満の影響を受ける。

■名古屋城を北から望む
堀川の左岸は名城公園、右岸は桜並木の堀川緑道。

■堀川の雪景色
西区内にて。正面は大幸橋。

■開削当時の掘留（朝日橋）
開削当時の堀川はここまで。これより上流は明治10年（1877年）に開削された。
平成17年（2005年）3月には船着場が完成。

■旧加藤商会ビル（登録有形文化財）
登録有形文化財であるこの建物は、修復工事が行われ、平成17年（2005年）1月にタイ料理レストランと堀川ギャラリーに生まれ変わった。

■納屋橋
納屋橋は南北軸の堀川と東西軸の広小路通が交差する名古屋発展の中心。

■ピア納屋橋（船着場）
納屋橋船着場はピア納屋橋という愛称で親しまれている。

■松重閘門（市指定文化財）
堀川と中川運河の水位差を調節して水運の便を図った。最盛期には年間8,000隻を越える船が行き交った。

■堀川の大清掃
市民ボランティアによる一斉大清掃が堀川全域で行われている。

■オープンカフェ事業
3年間の社会実験として河川敷で実施。
（平成17年（2005年）4月～）

■宮の渡し公園（時の鐘と常夜灯）
宮の宿は東海道唯一の海路「七里の渡し」（宮～桑名）の渡船場。今は歴史性豊かな公園として整備されている。

■堀川口防潮水門
水門から先は名古屋港、伊勢湾へと続く。後ろにはトリトン（名港３大橋）が見える。

■五条橋
堀川七橋のうち最上流の橋。この辺りから両岸ともにビルが建て込んでくる。

■四間道
堀川の西側に残る四間道と呼ばれる古い町並み。土蔵や古い商家が見られる。

■白鳥公園の親水護岸と名古屋国際会議場
白鳥公園や国際会議場への来場者も多く、市民の憩いの場となっている。

■白鳥プロムナード
ジョギング、散策、語らい・・・、毎日多くの人々が訪れる水辺のプロムナード。

堀　川
道　路
地下鉄

堀川MAP

● 堀川再発見

堀川をほんの少しですが写真で紹介します。堀川は名古屋の母なる川として、歴史や文化を語る大切な宝物であり、人々がイメージを共有できる川です。そしてうるおいと活気をもたらす魅力軸でもあります。堀川端を自分の足で歩いて自分の目で確かめてみませんか。堀川沿川にはさまざまな風景があります。名古屋の歴史と未来をつなぐ堀川を楽しんでください。

● 堀川の諸元

水系・種別　庄内川水系・１級河川
延　　長　16.2ｋｍ
　　上流端：庄内川からの分派点（守山区大字瀬古）
　　下流端：名古屋港
流域面積　51.9ｋ㎡（市域面積の約６分の１）